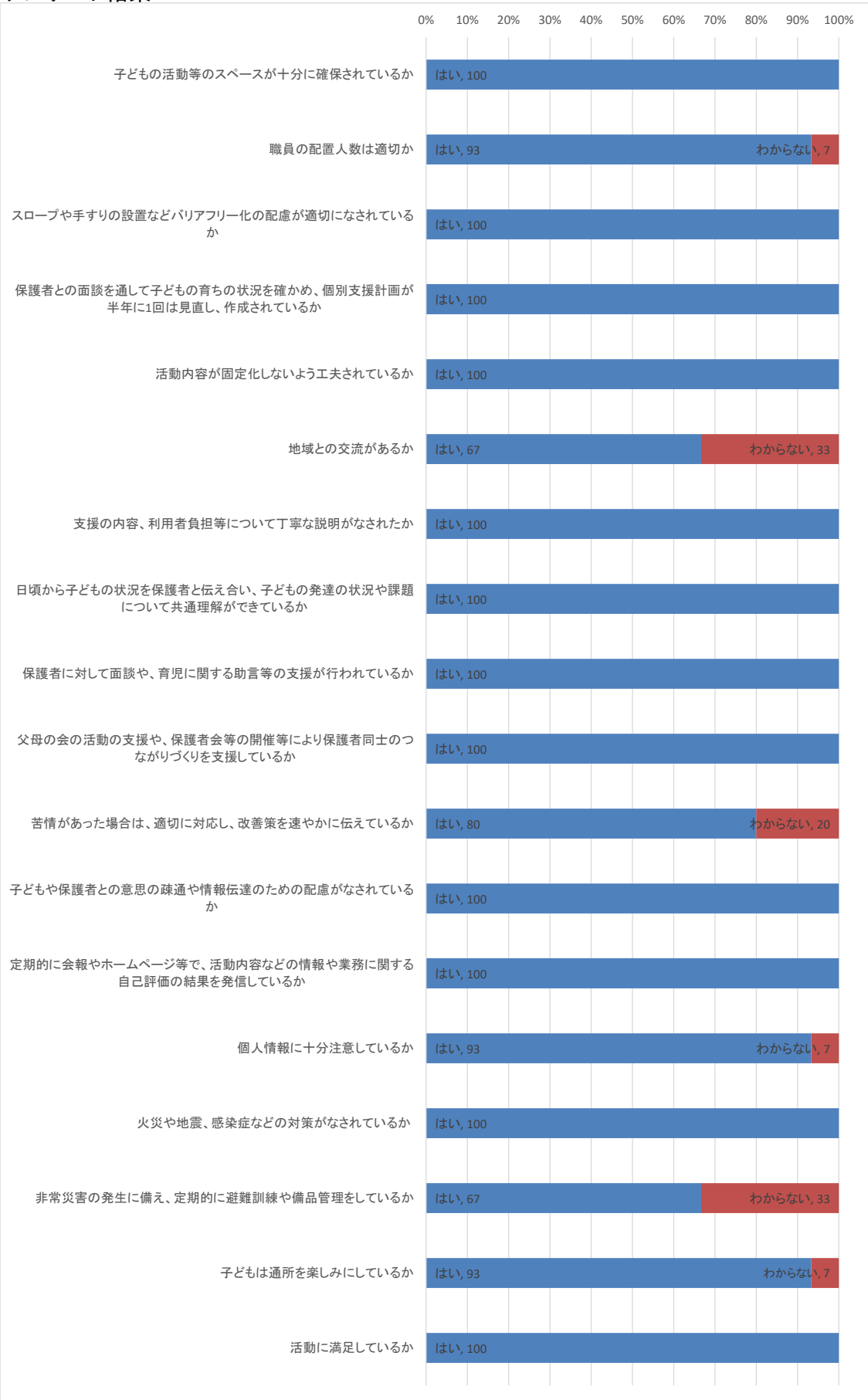


2022年度放課後等デイサービス事業者 自己評価 検討結果(わんぱくクラブ三軒茶屋)

アンケート結果

保護者(利用者)・・・27名 回答・・・15名 回答率・・・55%



改善点など

	工夫している点	課題	改善目標
環境・体制整備	・新型コロナウイルス流行に伴い、外遊びを自粛していたが、人の少ない公園・緑道散歩に出かけるようにした。また、室内で体を使った遊びを提供・設定し、新しい絵本や遊具を増やし、室内で過ごしやすいような環境設定を行っている。 ・助成金を活用し、運動マットやミニドラム、電子ピアノを購入し、自由時間の遊びや集団活動に活用した。 ・有資格者の採用につながる求人媒体を活用し、1名の採用ができた。ハローワーク主催の福祉のお仕事面接・相談会に参加し、採用活動を積極的に行った。 ・送迎など人手が必要な時間帯のみの短時間勤務のスタッフを採用した。	・有資格・同業種経験のスタッフ採用が1名できたが、それ以降は採用できておらず、より高い質・専門性のある保育体制を整える必要がある。 ・スタッフの体調不良等で、送迎体制が不安な時期があった。	・引き続き、有資格者の採用につながる求人媒体の活用及び開拓を行う。また、保育専門学校や社会福祉学科等、資格取得可能な大学への求人募集、実習生の受け入れについて検討・実施する。有資格者・経験者に対して魅力的な労働環境・条件を整えていく。 ・ジモティなど短時間かつ同地域内での勤務を希望する求職者を対象とした媒体を活用し、送迎スタッフの体制を強化する。
業務改善	・毎週末職員ミーティングを行い、ヒヤリハットや情報共有を行い、翌週のスタッフミーティングで、全スタッフに共有を行っている。 ・新規職員には、実務や活動のリーディングなど、ベテラン職員が指導を行い、段階的にスキルアップできるように育成している。 ・法人内で、職員や保護者を対象にしたオンラインの研修を企画し、実施している。	・施設内での職員、アルバイトスタッフの資質向上・利用者理解を目的とした学習会・研修会の実施が十分に行えなかった。 ・PC操作や業務の効率化について、研修や指導が十分にできなかった。	・保育前後のスタッフミーティングの時間を活用し、ケース検討およびケーススタディを学期に1回設定する。支援につながる外部研修の案内を打ち合わせ時に紹介し、積極的な参加を促す。 ・PC操作や業務の効率化に関する研修を実施する。
適切な支援の提供	・当日のミーティングで、活動予定や留意事項ををスタッフ間で共有している。活動予定は、日案に記載し、スタッフがいつでも確認できるようにしている。保育後もミーティングを設け、保育や利用者の振り返りを行っている。 ・集団遊び毎日行っており、来所する利用者の認知や身体発達状況も踏まえて、参加しやすい内容を企画している。 ・施設内にて、数種類のお弁当を用意し、食べたいものを選ぶこと、落ち着いて必要なお金を払うことを経験できる「買い物学習」を企画した。 ・活動で行っていた歌やダンス、手遊びなどの動画配信やオンラインによる対面のクイズゲームなどの在宅支援を継続して行っている。	・マットや電子ピアノなど大きい遊具は助成金などの活用で購入したが、子ども達が手に取って遊べる遊具の購入や作成が不十分だった。 ・在宅支援はオンラインを中心に行ったため、動画の作成ペースが落ちた。	・子ども達の興味を第一に考え、可能な範囲で遊具を購入する。また、利用者の来所前の時間を使い、手作り遊具を作成する。「ご自宅に眠っている遊具」の寄付を募る。 ・今月の手遊びや歌、集団活動で企画し、自宅でも取り組める遊びを定期的に作成し、アップロードする。在宅支援に活用しつつ、活動の記録としても活用する。
関係機関や保護者との連携	・連絡ノートを来所時に確認している。必要な情報は職員・アルバイトで共有している。活動内容、その日の様子などを書くことで保護者との共通理解を行っている。 ・半年に1回保護者と個別面談を行い、わんぱくの様子を伝えと共に、家庭や学校などでの様子を伺ったり、保育への要望を聴き取ったりしている。活動の記録を閲覧する機会を設けている。 ・オンラインアプリを活用し、保護者会を開催した。保育の近況や報酬改定について、運営で配慮していることなどについて全体に伝えている。 ・保護者との親睦会を通して、交流を進めている。(※新型コロナウイルス流行のため、今年度は未実施) ・施設のおたより「わんぱくだより」や、広報誌「わんぱくプレス」にて、保育の内容を報告している。 ・近隣大学の学生ボランティア受け入れを行った。 ・同じ建物内の事業所に協力していただき、ハロウィンのお菓子をもらいにいくイベントを実施した。	・保護者参加の行事が実施できなかった。 ・施設だよりの発行が定期的に行えなかった。	・保護者と利用者、職員がコミュニケーションを図れる特別活動を企画する。 ・個人情報に配慮しつつ、YouTubeや、オンラインアプリを活用して、保護者が保育の様子を見てもらえるような場を設定する。 ・施設だよりを毎月発行し、利用者・活動の様子を定期的に紹介する。
保護者への説明責任等	・契約書・重要事項説明書を基に、利用者負担金などについて説明をしている。 ・車輛利用に関して同意書を作成し、運用方法について同意を得ている。 ・利用に関する要望や希望について、利用の可否とその理由について、対面や電話にて説明を行っている。 ・怪我の発生時、発生後、通院への付き添いやそれに伴う利用者・家族へのフォローを適切に行った。	・保護者会を行ったが、1学期と2学期しか行えなかった。平日に行ったこともあるのか、参加人数が少なかった。	・学期に1回(年3回)オンラインアプリを活用しての、保護者会を行う。保育の内容を始め、利用に関わる情報提供や非常時対応などの説明を行う。保護者の要望を聞き取ったり、保護者同士の交流の場にする。保護者会と合わせて懇親会や保護者の経験を聞く会など、興味関心を持っていただける内容を企画する。土曜日の実施も検討・試行する。
非常時等の対応	・入会時や定期的に行うアレルギー・てんかん調査表に基づき、非常時の対応について把握している。 ・災害備蓄品を置いている。定期的に点検し、年間で予算を決めて購入している。 ・建物内の連絡会に出席し、緊急時の対応の共有を行っている。	・保管スペースの確保が不十分なため、非常食・水の量が心もとない。	・倉庫等整理し、保管スペースを確保する。 ・おやつを提供時に非常食を出し、利用者が食べられる非常食を選定する。